

平成29年度（後期）

学部

聴講生・科目等履修生

開講予定科目

福井県立大学

平成29年度後期授業日程

後 期 （10月1日～3月31日）

後期 授業開始 10月2日（月）～

※10月9日（火）は、月曜日の時間割になります。

期末試験 2月2日（金）～ 2月8日（木）

冬季休業 12月24日（日）～1月3日（水）

※10/28（土）、11/11（土）、12/9（土）、1/27（土）、1/31（水）、2/1（木）は、補講日となる場合があります。

福 井 県 立 大 学

平成29年度 後期 学部 聴講生・科目等履修生開講予定科目

永平寺キャンパス①

[一般教育科目]

47科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
解 析 学	田 中 武	2	月	1
国 際 政 治 学	島 田	2	月	2
文 学 概 論	木 村 小	2	月	3
神 話 学	松 本	2	月	4
現 代 人 権 論	片 山 他	2	月	5
生 物 科 学	宮 田	2	火	1
人 間 関 係 論	清 水 聡	2	火	1
ド イ ツ 語 Ⅱ ①	村 田	2	◆火1・水3	
言語文化（ドイツ）B	磯 崎	2	火	2
現 代 家 族 論	加 藤 ま	2	火	2
英語Ⅱ・中級・Listening/Writing	サ ッ カ	1	火	2
英語Ⅱ・中級・General	デンマン	1	火	3
中 国 語 Ⅱ ①	亀 田	2	◆火2・木2	
ド イ ツ 語 Ⅱ ②	村 田	2	◆火2・水4	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ ①	近 藤	2	◆火2・水3	
ロ シ ア 語 Ⅱ	前田・角	2	◆火2・水4	
外 国 語 特 講 D （ス ペ イ ン 語）	村 川	1	火	3
経 済 学	南 保	2	火	3
韓 国 朝 鮮 語 Ⅱ	李	2	◆火3・金4	
アフリカの文化と社会	杉 村	2	火	4
言語文化（フランス）B	近 藤	2	火	4
教養の最前線 F（環境学）	大 石	2	火	5
フ ラ ン ス 語 Ⅱ ②	近 藤	2	◆火5・水4	
運 動 処 方 論	石 原 一	2	水	1

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
情 報 科 学 Ⅰ	田 中 武	1	水	1
英 語 Ⅱ ・ 上 級 ・ Writing	浜 本	1	水	2
教養特講B（地球生命史学）	東 他	2	水	3
言語文化（ロシア）B	角	2	水	3
地 域 特 講 E（手話）	石 井 他	2	水	3
イ ス ラ ー ム 史	横 内	2	水	4
言語文化（中国）B	加 藤 錦	2	水	4
物 理 学 Ⅱ	中 村	2	木	2
メディア情報処理概論	徳 野	2	木	2
東アジアの文化と社会	加 藤 錦	2	木	3
英語Ⅱ・初級・Listening	長 岡	1	木	3
現 代 の 科 学	中 村	2	木	4
英語Ⅱ・中級・Listening	浜 本	1	木	4
異 文 化 理 解	デンマン	2	木	5
数 学 基 礎	中 村 匡	2	金	1
統 計 学 基 礎	田 中 武	2	金	1
韓 国 朝 鮮 語 Ⅳ	李	1	金	3
教 養 特 講 D （金画・デザインマネジメントと発想）	谷 内	2	金	3
歴 史 学	上 柿	2	金	3
芸 術 学	北 村	2	金	4
外 国 語 特 講 B （アイスランド語）	松 本	1	金	4
中 国 語 Ⅳ a	加 藤 錦	1	金	4
外 国 語 特 講 C （現代ギリシャ語）	上 柿	1	金	5

◆印の科目は週2回15週授業があります。

[経済学部専門科目]

34科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
マ ク ロ 経 済 学 Ⅱ	新 宮	2	月	1
生 産 管 理 論 Ⅱ	木 野	2	月	2
簿 記 論 Ⅰ	山 下	2	月	2
原 価 計 算 論 Ⅰ ・ Ⅱ	木 下	4	月	◆3・4
国際経済学B：国際金融論	杉 山	2	月	5
文 化 経 済 学	山 崎 茂	2	火	1
環 境 経 済 学	岡	2	火	2
経 営 戦 略 論 Ⅱ	山 路	2	火	2
人的資源管理論Ⅱ	飛 田	2	火	2
キャリアデザイン特論	中 里	2	火	2
キャリアデザイン概論Ⅱ	中 里	2	火	3
中国の企業と経済	唱	2	水	2
経 済 人 口 学	中 西	2	水	2
消 費 者 行 動 論	北 島	2	水	2
地 方 公 企 業 論	浅 沼	2	水	2
経 営 学 総 論 Ⅱ	山 路	2	水	3
経 済 学 史	中 西	2	水	3

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
中 小 企 業 論 Ⅱ	山 崎 淳	2	水	3
地 方 財 政 論	桑 原	2	水	3
フ ァ イ ナ ン ス 理 論	佐 野	2	水	3
会 計 学 Ⅱ	徳 前	2	木	1
計 量 経 済 学	松 岡	2	木	2
ロ シ ア 経 済 論	ベ ロ フ	2	木	2
比 較 労 使 関 係 論	尹	2	木	2
税 務 会 計 論	内 川	2	木	2
キャリアデザイン特論	中 里	2	木	3
キャリアデザイン概論Ⅱ	中 里	2	木	4
ミ ク ロ 経 済 学 Ⅱ	渡 邊	2	金	1
経 営 情 報 論	藤 野	2	金	1
日 本 経 済 史	原 田	4	金	◆2・3
経 営 組 織 論	田 中 求	4	金	◆2・3
経 済 数 学	渡 邊	2	金	2
経 営 分 析 論	境	2	金	3
社 会 保 障 論	北	2	金	4

◆印の科目は週2回15週授業があります。

永平寺キャンパス②

[生物資源学部専門科目]

20科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
植 物 栄 養 学	塩 野	2	月	2
化 学 II	黒 川	2	火	1
生 物 物 理 化 学 I	植 松	2	火	1
生 物 有 機 化 学	濱 野	2	火	1
食 品 化 学	高 橋	2	火	2
生 物 物 理 化 学 II	伊 藤 貴	2	火	2
植 物 生 理 学 II	林	2	水	1
生 態 学 II	水 口	2	水	1
生 物 物 質 化 学	片 野	2	水	2
応 用 微 生 物 学 I	丸 山	2	水	2

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
地 学 概 論	野 田 他	2	木	1
作 物 資 源 学	大 田	2	木	1
農 業 経 営 論	北 川 太	2	木	1
生 態 学 I	吉 岡	2	木	2
分 子 生 物 学 II	三 浦	2	木	2
食 品 衛 生 学	伊 藤 崇	2	金	1
生 物 学 II	村 井 他	2	金	2
生 化 学 II	石 川	2	金	2
分 子 生 物 学 III	岩 崎	2	金	2
応 用 気 象 学	皆 巳	2	集中講義（末尾参照）	

[看護福祉学部専門科目]

29科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
公 衆 衛 生 学	平 井	2	月	2
保 健 指 導 論	中 谷	※1	月	2
公衆衛生看護活動論 I	中 谷	※1	月	3
看 護 教 育 学	月 僧	※1	月	3
精神保健ソーシャルワーク論 I	吉 川	2	月	4
母 性 看 護 学 概 論	大 川	※1	月	4
老 年 看 護 学	寺 島	2	火	2
社 会 問 題 論 B	塚 本	2	火	2
生 涯 発 達 学	齋 藤	2	火	2
解 剖 生 理 学 II	本 田	2	火	◆3・4
高 齢 者 福 祉 論 II	奥 西	2	火	4
家 族 看 護 論	月 僧	※1	火	4
発 達 心 理 学 I	青 井	2	火	5
学 校 保 健 I	佐 々 木	※1	水	2
法 学 概 論	光 照	2	水	2

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
民 法 （ 家 族 法 ）	光 照	2	水	3
ソーシャルワーク論 IV	吉 弘	4	水	◆1・2
疫 学	平 井	2	木	1
社 会 福 祉 調 査 B	塚 本	2	木	2
精 神 看 護 学	長 谷 川	2	木	3
在 宅 看 護 論	普 照	※1	木	4
臨 床 病 態 学 II	米 田	1	金	1
成 人 急 性 看 護 学	山 崎	2	金	1
ソーシャルワーク論 I	舟 木	2	金	2
看 護 学 原 論 II	大 久 保	2	金	2
成 人 慢 性 看 護 学	有 田	2	金	2
保 健 統 計 学	齋 藤	2	金	4
心 理 学 概 論	森	2	金	5
精神科リハビリテーション学	辻 井	2	集中講義（末尾参照）	

※1の科目は授業が8回で終わります。

◆印の科目は週2回15週授業があります。

[教職科目] 教育職員免許状取得を目的とする科目等履修生対象

10科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
道 徳 教 育 研 究	福 田	2	火	2
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	黒 田	2	水	3
教 育 史	小 林	2	木	5
教 育 相 談	黒 田	2	木	5
教 育 原 理	小 林	2	金	5

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
公 民 科 教 育 法 II	佐 々 木	2	金	3
商 業 科 教 育 法 II	藤 野 正	2	集中講義（末尾参照）	
理 科 教 育 法 II	浅原・西沢	2	月	5
農 業 科 教 育 法 II	西 田	2	月	3
福 祉 科 教 育 法 II	田 村	2	集中講義（末尾参照）	

小浜キャンパス

〔一般教育科目〕

2科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割	授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
英 語 II ・ 中 級 ・ Reading	森 英	1	金	3	東アジアの文化と社会	亀 田	2	金	4

〔海洋生物資源学部専門科目〕

21科目

授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割	授業科目名	担当教員	単位数	曜日	時間割
藻 類 学 概 論	神 谷	2	月	1	漁 業 制 度 論	河 原	2	水	2
水 産 資 源 学	富 永	2	月	1	地 学 概 論	野田・宮田	2	木	1
沿 岸 海 洋 学	兼 田	2	月	2	水 族 病 理 学	宮 台	2	木	2
沿 岸 生 態 工 学	瀬 戸	2	月	2	魚 類 学	小 北	2	金	1
水 圏 微 生 物 生 態 学	近藤・高尾	2	火	1	水 産 経 営 学	加 藤 辰	2	金	1
食 品 安 全 管 理 論	松 川	2	火	1	山 川 里 海 連 関 学	兼 田 他	2	金	2
水 産 経 済 学	東 村	2	火	2	食 品 保 全 学	松 川	2	金	2
食 品 栄 養 学	横 山	2	火	2	水 産 施 設 工 学	渡 辺	2	集中講義（末尾参照）	
分 子 生 物 学	吉 川	2	水	1	生 物 資 源 分 析 化 学	小 玉	1	集中講義（末尾参照）	
生 物 資 源 統 計 学	富 永 他	2	水	1	海洋生物資源学特別講義Ⅴ （藻類増殖）	村 瀬	1	集中講義（末尾参照）	
食 品 化 学	水 田	2	水	2					

※集中講義の時間割

応 用 気 象 学	10/22（日）、11/4（土）、11/23（木祝）、12/10（日）、12/24（日）の2～4限
水 産 施 設 工 学	---
生 物 資 源 分 析 化 学	11/4（土）の1～5限、11/5（日）の1～3限
海洋生物資源学特別講義Ⅴ （藻類増殖）	12/16（土）の1～5限、12/17（日）の1～3限
精神科リハビリテーション学	10/21（土）、11/4（土）、11/12（日）、1/7（日）の1～4限
地 球 科 学	2/9（金）、10（土）、11（日）の1～5限
商 業 科 教 育 法 II	10/14（土）、21（土）、11/4（土）、11（土）、18（土）、12/2（土）の1～2限、12/9（土）の2～4限
福 祉 科 教 育 法 II	10/29（日）、11/18（土）、12/16（土）、17（日）の1～4限

学部開講予定科目数	163科目
永平寺キャンパス	140科目
小浜キャンパス	23科目

【受講申込にあたっての留意事項】

- ＜授業時間＞ 1 時限（9:00～10:30） 4 時限（14:40～16:10）
2 時限（10:40～12:10） 5 時限（16:20～17:50）
3 時限（13:00～14:30）
- 後期授業は10/2（月）～1/31（水）に 1 科目あたり 1 5 回行います。（※印は 8 回、◆印は 3 0 回）
- 時間割は変更する場合があります。
- 開講予定科目は「学部」の他に「大学院」の開講予定科目（25科目）があります。
詳しくはお問い合わせください。

後期開講科目授業概要【一般教育科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
解 析 学	大学初年次の範囲における微分・積分の基礎と応用について講義する。高校で数学Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。定理の証明は簡略にとどめる。数学の応用分野の共通知識として必要な、テイラー展開、多変数関数の微分・積分などを扱う。
国 際 政 治 学	アメリカ外交の展開、国連の問題点、中国の動き、中東問題、朝鮮半島問題などを重層的に捉え、日本外交のあり方を考える。
文 学 概 論	現実と異なる虚構世界の創造は文学の大きな要件だが、他方、「自分を語る・書く」こともまた、文学の源流の一つである。代表的な作家達の著述から見えてくる日記・手紙・告白・手記の特質を通して、文学的叙述の多面性について考える。
神 話 学	本講義では神話の中で主に「北欧神話」を扱う。北欧神話の分析を通じ、神話・伝説がどのように生まれ、人々に信仰されていたのか、神話とそれを語り継ぐ社会とがどのような関係にあったのかについて考察する。
現 代 人 権 論	現代社会における種々の人権問題を多様な視点から分析し、その本質や解決策について解説する。授業は、オムニバス形式で、各回の講義は、法律、哲学、社会福祉など様々な学問分野の専門家が担当する。
生 物 科 学	哺乳類を題材とした生物進化、適応放散、絶滅、多様性など、またこれらの要因となる背景についても解説し、生物科学領域の魅力とその研究の取り組みなど紹介する。
人 間 関 係 論	社会的場面における個人のこころの動き、対人行動、集団と個人の関係等について、代表的トピックスを取り上げて概説する。
ド イ ツ 語 Ⅱ ①	前期に引き続き、実際にドイツ語を使う中で、ドイツ語文の規則を自ら「発見」しつつ、さらに表現法と文法知識を拡充します。 引き続き、ペアワークによって日常的な会話表現を身につけていきます。
言 語 文 化 （ ド イ ツ ） B	前期の「言語文化(ドイツ)A」に引き続き、講義形式で現代ドイツの文化を扱います。個人のなかに残された記憶、それが時間的・空間的に拡大され、世代や地域という枠組で共有された集合的記憶、さらにはそれがメディア化された文化的記憶という三つの観点から、ナチズムをめぐるドイツの現代史と文化について考察します。概説として社会背景や思想的背景を説明したうえで、映画作品等の映像資料や文芸作品も交えながら授業を進めます。
現 代 家 族 論	現代日本の家族の変化を、歴史的な流れにおいてとらえ、また諸外国での家族の変化の動向のなかでとらえる。家族が変化するなかで、子育てや高齢者介護においてどのような問題が生じているのか解説する。
英 語 Ⅱ （ 火 2 ） ・ 中 級 ・ Listening/Writing	1) Learn about American historical culture 2) Learn through the movie, Forrest Gump 3) Develop communication skills such as eye contact, gestures, voice inflection 4) Read about American culture and write reaction papers
英 語 Ⅱ （ 火 3 ） ・ 中 級 ・ General	オーストラリアのニュース番組を基本資料とし、以下の作業を行う。 1) 映像を見たり、資料を読んだり、語彙の例文を調べたりする。 2) 関連するトピックについて考え、ペアやグループで英語で話す。 3) 会話の内容を英語で書く。

後期開講科目授業概要【一般教育科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
中国語Ⅱ①	半年の入門的中国語を習得したことを前提に、さらに文法知識と語彙の拡充および徹底した発音練習を行う。
ドイツ語Ⅱ②	半年の入門ドイツ語を習得したことを前提に、さらに文法知識を拡充します。引き続き、DVDとペアワークによって表現法を身につけます。
フランス語Ⅱ①	基本的にフランス語I①の継続。日常生活のさまざまな場面に対応できるような実践的なフランス語の習得を課題としています。
ロシア語Ⅱ	ロシア語の基本のしくみを理解する。ロシア語の基本表現の習得。ロシア語の生活・文化にふれる。動詞の第一変化と第二変化、名詞の格変化の意味と用法について学習する。またロシア映画鑑賞を行う。
外国語特講Ⅱ (スペイン語)	スペイン語世界への導入を図りつつ、今後の独自学習の足がかりを築くことが本講義の目的となります。教科書を用いた文法学習と並行し、音声・映像資料を鑑賞する機会をもうけ、スペイン語圏の広がりにも視野を開いてゆきます。
経済学	・日本経済を取り巻く諸問題を取り上げ、その要因分析と打開策を解説する。 ・様々な経済活動に対し客観的な理解力を深めるために、最低限必要な統計、経済データを紹介、見方、活かし方を習得する。
韓国朝鮮語Ⅱ	イラスト・ベースの教材を学習していきます。各課、会話形式の学習を通して「読む、書く、話す、聴く」を総合的に志向します。これをするために、テキストに完全対応したワークブックを十分に生かす授業を行います。
アフリカの文化と社会	本講座では、アフリカの歴史・文化・社会の講義を行い、地域間比較の視点からヨーロッパやアメリカあるいは東アジア、東南アジア、インド、中東とは異なるアフリカの世界の特徴を明らかにするとともに、アフリカが抱える貧困・紛争などの地域問題、さらには、21世紀に向けてのその可能性と潜在力についても学習する。
言語文化(フランス)Ⅱ	後期のこの講座では、フランスの世界遺産を紹介しながら、フランスの歴史と地理に関する知識の拡充を図ります。フランスの歴史、文化に関する『なぜ』を重ねて、フランスの歴史と文化の特徴を眺望します。
教養の最前線F(環境学)	控えめで目立たない植物「コケ」。しかし、この小さな世界の中には、見る人を魅了してやまない美しさが秘められています。それだけではありません。実は、環境の変化に敏感なコケに着目することで、我々をとりまく環境問題がみえてくるのです。
フランス語Ⅱ②	前期フランス語I②の継続授業です。読むために必要な総合的なフランス語の力の養成を図る一方、フランス語圏を旅行するときに必要な会話能力を身につけることを課題とします。
運動処方論	健康・体力の維持増進、競技力向上のための安全で効果的な運動プログラム作成の基礎について学習する。また、体力測定を行い、自らの体力を診断し、各自の目的に応じた運動プログラムを作成する。
情報科学Ⅰ	情報社会を生きる上で必要な知識と思考を学ぶ。前半の「情報と社会」では、ビデオ講義と対面グループワークを交互に行い、情報社会の課題等を体験的に理解できるようにする。後半の「情報とコンピュータ」では通常の講義形式で授業を行う。

後期開講科目授業概要【一般教育科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
英語Ⅱ（水2）・上級・Writing	アメリカの地理と歴史について概略を学んだうえで、独自に関心のあるトピックを見出し、リサーチを行う。その際、インターネットや洋書文献にも目を通して、英語でリサーチをすすめる力を養う。
教養特講B（地球生命史学）	美しい惑星地球では約46億年前の地球誕生後、生命は彼らの営みを地球上で続けてきた。生命は、地上、水中、空中と地球上のあらゆる生活空間で繁栄を遂げてきた。これら生命の繁栄は、地球環境の変遷と密接な関わりがある。本講義では、地球誕生以降の地球環境の変遷と生命の関わりなどについて脊椎動物を中心に考えてみたい。
言語文化（ロシア）B	多くのロシア映画を通してロシア文化、社会を紹介する。 ユダヤ文化とロシア文化を融合した絵を描いた画家シャガールについて講義する。
地域特講E（手話）	厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム対応の入門課程及び基礎課程の履修。 聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現を習得する。
イスラーム史	イスラームという宗教と、イスラームが主要な宗教である地域（東南アジアから西アフリカにかけて）の歴史を概説する。その際、イスラーム誕生以前の世界についてもあわせて紹介する。また視覚的な理解を促すべく、写真・映像等を積極的に提示していく。
言語文化（中国）B	この授業は中国の文化や風習などを通じて総合的に中国を理解する。
物理学Ⅱ	物理学の歴史の中で、電磁気学がどのような位置にあり、現代までどのように発展してきたかの歴史からはじめ、電磁気学の基礎法則について具体的な問題を解きながら講義する。
メディア情報処理概論	私たちがコミュニケーションで用いる言語や文字、音声や画像をコンピュータで表現、処理するためのメディア情報処理技術について学習する。自然言語処理やパターン認識の基礎を概説し、適宜、その応用技術を紹介する。
東アジアの文化と社会	中国の社会体制、世界遺産、中国の文化などを通して中国を知る。
英語Ⅱ（木3）・初級・Listening	英語の楽曲を題材に学習する。リスニングや発音練習とともに、楽曲やアーティストに関する文章の読解を通して時代背景にも触れる。
現代の科学	現代の科学は高度に細分化されて、その概容ですら非専門家には理解しがたい。本授業では、個々の科学的事実を羅列するのではなく、近代から現代にかけての科学とはどういうものか、科学と賢くつきあっていくには何が必要かを講義形式で考える。
英語Ⅱ（木4）・中級・Listening	日本文化を外国人向けに紹介するDVD『Trad Japan』を用い、馴染みある日本の文化が英語でどのように説明されているか学び、日本文化を英語で説明するために必要な語彙と、リスニング力の向上を目指す。インターネット等を用いて実践的な課題に取り組むアクティビティを行う。
異文化理解	日本語の教科書を基に、講義は英語で行われる。文化、差別、価値観、コミュニケーション等について様々な概念を知り、自分が違いにどう反応・適応・受容できるかを考える。

後期開講科目授業概要【一般教育科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
数 学 基 礎	数学を専門としない一般の人が数学について知っておくべきこと、および知っている楽しいことを身に付ける。計算は嫌いだが、数学とはどういうものか知りたい、という受講者向け。
統 計 学 基 礎	高校までに学んだ確率・統計の復習ではなく、大学レベルの統計処理の基礎理論としての数理統計学を講義する。「基礎」とは簡単という意味ではない。高度な数学を必要とし、理解が困難な分野である。受講者諸君は十分な予習・復習が必要である。
韓 国 朝 鮮 語 IV	イラスト・ベースの教材を学習していきます。各課、会話形式の学習を通して「読む、書く、話す、聴く」を総合的に志向します。これをするために、テキストに完全対応したワークブックを十分に生かす授業を行います。
教 養 特 講 D (企画・デザインマネジメントと発想)	この授業では、企画・デザインの考え方と代表的な方法論による発想の仕方からデザインマネジメントを含め、イノベーションにつながるデザインの考え方を学ぶ。デザインに於けるさまざまな企画や計画の立案には多様な情報が必要である。その立案は、定数情報と定性情報が絡み合っ出来上がるが、この授業では定性的な情報構築に焦点を当てている。なお、情報をつくり出す方法論を身体知化するために演習的な内容を含めている。
歴 史 学	歴史学の実践例を通して、歴史的思考の方法と意義を学ぶ。より具体的には、過去に書かれた歴史の特徴を踏まえつつ、現代の歴史学において史料を用いて新しい歴史像が生み出される手法とプロセスについて、実際の史料分析を通して理解を深める。
芸 術 学	19世紀から今世紀に至る近現代の芸術、とりわけ美術の発展を具体的作品に即して概観しながら、時代の変化と芸術との関係に注目し、芸術とは何かを考える。
外 国 語 特 講 B (ア イ ス ラ ン ド 語)	アイスランド語の入門編。簡単な文法や語彙、会話について学ぶとともに、アイスランドの文化や生活についても理解を深める。
中 国 語 IV a	一年間の初級中国語を習得したことを前提に、中国語のさらなる文法知識と語彙の拡充をおこなう。
外 国 語 特 講 C (現 代 ギ リ シ ャ 語)	現代ギリシャ語の基本的な構造を理解し、習得する。具体的には日常のコミュニケーションに必要な文法を、実践的な表現を通じて学び、自分で使える能力を身につける。あわせて現代ギリシャ語の背景にあるギリシャの重層的な文化や歴史を学ぶ。

後期開講科目授業概要【経済専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
マ ク ロ 経 済 学 II	経済学の基礎理論の一つであるマクロ経済学の中盤部分を、テキストにしたがって分かりやすく説明します。中盤部とは、IS/LM 分析、そのオープン・エコノミーへの拡張、失業とインフレーション・デフレーションまでを指します。
生 産 管 理 論 II	「生産管理論Ⅰ」で学んだ製造技術に関する知識を踏まえて、本講義では製品技術を主に取り扱い、日本の製造企業における研究開発体制の特徴と、サプライヤー（資材・部品供給会社）との企業間関係、製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて学ぶ。
簿 記 論 I	本講義では、簿記原理の内容（日商簿記3級レベルの内容）は理解していることを前提に日商簿記 2級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記論Ⅱ（2年生の前期）と連続した内容となっており、株式会社簿記論の前半部を扱うことになる。
原 価 計 算 論 I ・ II	製品の原価を中心に原価管理について多面的な検討を行う。 製品原価がいくらかを把握するための計算方法について学習し、なぜその計算をするのか理論的に解説する。加えて実務で原価が活用されている事例を紹介し分析する。
国際経済学B：国際金融論	国際経済学は大きく貿易論と国際金融論（国際マクロ経済学）から構成されますが、この授業では国際金融論（国際マクロ経済学）をとり上げます。具体的には、国際収支統計の見方、外国為替のしくみ、為替レートの決定など国際金融の基礎的な知識と理論、国際金融体制と通貨制度等について解説します。
文 化 経 済 学	アートや芸術を経済学的に解明する。デジタル産業やクリエイティブ産業の現状と方向性を学ぶ。観光についても触れていく。
環 境 経 済 学	主流経済学（ミクロ理論）が環境問題をどう捉えるかを、放射線リスク問題、公害、地球温暖化問題を例に説き、その限界も論じる。
経 営 戦 略 論 II	経営戦略は、企業と環境との関係、企業の成長や発展と深くかかわる分野です。「経営戦略論Ⅰ」では、経営戦略の全体像、基礎的概念などを学習しました。「経営戦略論Ⅱ」では、「経営戦略論Ⅰ」での理解を前提に、企業の成長プロセスを多面的に分析することによって、戦略や戦略と組織との関係を広く深く学習します。
人 的 資 源 管 理 論 II	採用から始まり昇進、異動、教育訓練、キャリア形成、評価、賃金制度等の人事・労務管理の仕組みを、企業事例、海外企業との比較を交えながら講義します。
キャリアデザイン特論	本授業は多業種の企業人を招き、企業や職場の事業内容や人材育成についての講話を中心に進めます。事前準備や講話の振り返りを基に、キャリア形成に必要な意識や能力を理解し、それらをどのように育成するか考えます。
キャリアデザイン概論Ⅱ	国際化の進展や産業構造の変化に伴い、社会が求める人材や働き方も多様化しています。このような状況下にあってもどのように自分のキャリアを形成していくのかが問われています。この講義では、社会・経済環境の変化を理解し職業や働き方を多面的に捉えることで、自己を生かすためのキャリア形成を遂行できる基礎的能力を育成していきます。
中 国 の 企 業 と 経 済	本講義では、中国の企業制度、主要産業の発展と有力企業の経営実態に関する説明を通じて、市場移行、経済成長の構造的特徴および中国型ビジネスモデルへの理解を深めて生きたい。
経 済 人 口 学	20 世紀初頭に17 億人だった世界人口は、2016 年には74 億人、2056 年には100 億人になるとうとしている。しかし、先進国では非婚化・少子化・高齢化が進行し、日本も人口減少時代を迎えている。本講義では、世界と日本の人口の歴史・理論・現状・対策を扱う。適当なテキストはないので、講義ノートと資料を毎回配布する。
消 費 者 行 動 論	企業のマーケティング戦略は、消費者行動の理解なしには立案しえない。消費者行動の分析方法と現代における消費者行動の特徴を理解する。

後期開講科目授業概要【経済専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
地 方 公 企 業 論	地方公企業(地方公営企業、地方公社、第三セクター等)について、基礎的な理論と制度面の基礎知識、さらには民間委託、指定管理者制度、PFI、地方独立行政法人など関連する最近のトピックスについても講義する。
経 営 学 総 論 II	「経営学・入門講座」の「基礎応用編」として、「経営学総論Ⅰ」で習得した基礎的な知識に基づいて、より深いレベルでの経営理論の理解と企業経営の実態の把握ができるように、企業経営における基本的な諸問題と経営学の基礎的諸概念について、両者をリンクさせながら具体的に議論していきます。
経 済 学 史	近代における経済学の成立期からケインズ以降にいたるまでの理論経済学の歴史的な展開を講義します。経済思想史・社会思想史にも触れはしますが、おもにイギリスの理論史の領域を扱うことになります。
中 小 企 業 論 II	中小企業に関する議論を示すことはもちろんのこと、知識集約的なイノベータとしての中小企業である「ベンチャー企業」についての議論まで発展させたい。また、現実的課題を理解するためにケース・スタディーを試みることにしたい。具体的に戦略がどのように策定され、なぜ成功または失敗したかを学ぶことで実践的な感覚を養う。
地 方 財 政 論	地方分権型社会への移行に伴い、地方自治体は地域を「管理」することから「経営」することへとシフトしてゆかねばならない。一方で、逼迫する財政問題も抱えており、連携と協働による一体的で効率的な地域経営が望まれる。
フ ァ イ ナ ンス 理 論	ポートフォリオ、インデックスモデル、資本資産評価モデル、効率的市場仮説、幾何過程モデル、オプション理論、無裁定定理など、古典的な数理ファイナンス理論の基本的な事項について学びます。
会 計 学 II	会計は、企業や組織の実態を反映させる鏡である。その機能により、様々な役割を果たし、我々の生活に入り込んでいる。利益計算など会計の仕組みと開示システムの解説と、会計規則の根拠・あり方、そこで求められる役割を考える。
計 量 経 済 学	計量経済学の基礎的な考え方を学びます。計量モデルで統計的推測の考え方がどう使われるか理解してもらい、モデルから導かれた結論をより深く理解できるようになってもらいます。
ロ シ ア 経 済 論	ロシアには1860年代から急激な近代化、1920～90年代に社会主義体制の建設、1992年から市場経済化、わずか150年間で3回体制転換が行われました。ロシア政治経済制度はなぜ安定していないのか、ロシアの社会にはどんな特徴があるのか、今後のロシアはどうなるのか、という問題について述べたいと思います。
比 較 労 使 関 係 論	個人主義と集団主義を軸に、日本と諸外国の企業経営および労使関係の現状およびあり方を比較分析する。
税 務 会 計 論	所得課税である法人税と消費課税である消費税について、課税物件の違いによる両税の相違点を事例ごとに解説する。各事例から、法人税の基本的な考え方と取扱いを解説するとともに、消費税固有の論点についても学ぶ。
キ ャ リ ア デ ザ イン 特 論	本授業は多業種の企業人を招き、企業や職場の事業内容や人材育成についての講話を中心に進めます。事前準備や講話の振り返りを基に、キャリア形成に必要な意識や能力を理解し、それらをどのように育成するか考えます。
キ ャ リ ア デ ザ イン 概 論 II	国際化の進展や産業構造の変化に伴い、社会が求める人材や働き方も多様化しています。このような状況下にあってもどのように自分のキャリアを形成していくのが問われています。この講義では、社会・経済環境の変化を理解し職業や働き方を多面的に捉えることで、自己を生かすためのキャリア形成を遂行できる基礎的能力を育成していきます。
ミ ク ロ 経 済 学 II	ミクロ経済学Ⅱは、前期のミクロ経済学Ⅰの続きです。講義の前半では、価格メカニズムがもたらす「市場の効率性」を学びます。後半は、一転して、独占や情報の非対称性の問題を扱う「市場の失敗」を学習します。

後期開講科目授業概要【経済専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
経 営 情 報 論	情報通信技術(ICT)の高度化・一般化やコンピュータの低価格化の進展により、今日では組織経営、事業運営への情報通信技術の活用は必要不可欠となっている。本講義では、組織経営・事業運営にICT がどのように活用されているか、ICT の構成要素、情報システムの設計・開発の進め方、最新のICT のトピックスについて解説する。
日 本 経 済 史	現代の経済社会を歴史的視点から理解するために開講します。講義は近世(江戸時代)から近代、さらに現代までを対象とします。歴史的事実の習得のみならず、その事実の解釈についても考えます。
経 営 組 織 論	我々の社会生活は様々な組織との接触で成り立っている。企業をはじめとするこの多くの組織について、その本質を問い、そこでの人間行動、そして管理について考察していく。
経 済 数 学	経済学や経営学を学んでいく上で身につけておく役立つ基本的な数学のスキルや思考法を学ぶ。講義で学ぶ数学は、「割合・比例」「1次関数」といった比較的簡単なものから「微分」といったレベルの高いものまでである。
経 営 分 析 論	財務諸表の見方を知り、さらに財務諸表の諸項目の関係に着目して相対比や金額を算出すれば、多様な企業間比較や時系列比較が可能になります。そこでこの講義では、財務諸表を利用したさまざまな分析指標について学びます。
社 会 保 障 論	社会保障は所得保障と社会サービスによって国民の生存権の保障と生活水準格差の縮小を図る政策体系である。この授業では、生活保護、公的年金、医療保険、雇用保険等日本の代表的な社会保障制度について解説する。

後期開講科目授業概要【生物資源学専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
植 物 栄 養 学	植物は土壌から水と無機元素を吸収して有機物を代謝することで、自らの細胞をつくりあげ維持している。本講義では植物の生殖・増殖を支える、植物栄養素および水の吸収、輸送、同化について講じる。
化 学 II	生命科学を理解し、応用する上で不可欠な有機化学の基礎知識およびロジックを学ぶ。有機電子論に基づいた化学結合の理解に始まり、有機化合物の命名法や、官能基を基にした分類法を取得し、各化合物の特徴や構造に関する基礎的な知識を習得する。
生 物 物 理 化 学 I	生命科学を、物理化学の理論および方法論の見地から考究するための基礎を学ぶ。熱力学を中心として巨視的レベルでの現象やその解析法について後述する。題材として生命現象に関するものを選んで解説する。
生 物 有 機 化 学	化学と生化学の融合領域の学問である「ケミカルバイオロジー」を理解するためには、生体分子の基本的な反応機構の原理を正確に理解しなければならない。本講義では、生化学に共通する反応機構を解説する。
食 品 化 学	三大栄養素の基本構造、食品の嗜好機能(二次機能)や生体調節機能(三次機能)をになう成分、加工・保存中の成分変化、生理活性成分の機能と作用機構について、分子レベルで解説する。また乳製品・大豆加工品など、食品加工例を紹介する。
生 物 物 理 化 学 II	最先端の生命科学研究に必要となる生体分子の構造解析や分析方法を紹介しながら、その根底にある現代物理化学の概念や背景について講述する。そのため数式の使用は必要最低限にとどめ、内容を中心に解説する。
植 物 生 理 学 II	前期の「植物生理学I」の継続として、植物の炭素、窒素などの同化と異化、物質・エネルギー代謝の仕組みについて講義する。
生 態 学 II	非生物的・生物的な生態リスクとその測定・評価法について学び、リスク同士のトレードオフ関係やコスト、ベネフィットとのバランス関係について認識した上で、福井県の農業環境における生態リスクについて議論し、さらに最新の研究について技術者の視点でとらえる訓練を行う。
生 物 物 質 化 学	生体微量必須元素を中心として、錯体を含めた無機物の機能について解説する。生体内で反応場として重要な界面現象についても触れる。生物資源にも深く関るいくつかの素材ないしは機能性薬剤について解説する。
応 用 微 生 物 学 I	微生物が産業的に活用されてきた背景、微生物の代謝の仕組みおよびその応用方法について、伝統的な醸造製品及び近代的なアミノ酸・核酸の発酵生産を中心に解説し、今後、微生物を工業的に利用する際の要点を講義する。
地 学 概 論	地球や太陽系、宇宙の成り立ちや地球の特徴を捉え、地球の46億年の歴史に関わる基本的な知識と、地震や火山等の様々な地質現象、ダイナミックな地球の活動についてプレートテクトニクスを中心に解説する。また、生命は地球の環境変動と密接に関わりながら、進化・絶滅の歴史を繰り返してきた。地層と化石からどのような生命史のイベントが読み取れるのか古い時代順に紹介し、地球環境変遷と生物進化を解説する。
作 物 資 源 学	前半：植物遺伝資源の消失とそれに伴う危険性、遺伝資源をめぐる世界の動向 作物の栽培化の過程で起こった植物の遺伝的変化と人間生活の変化 後半：主要な穀類の利用・起源・日本への伝播
農 業 経 営 論	農業・食料・農村問題に対する経営・経済学的な考え方について講述し、日本の農業・農村、地域農業や農業経営が抱える諸問題と解決(政策)の方向について考えます。関連する「農業経済学」「農産物流通論」などの領域も取り扱い、ビデオなども活用しながら、最近の話題などにも触れていきます。
生 態 学 I	植物の種個体群の成り立ちを解説した上で、多種共存の原理について講じる。また、県内の絶滅危惧植物の現状と保全事例について、学外講師を招き特別講義を行う。特別講義では、環境分野における技術士の社会的ニーズについても学ぶ。さらに、日本の生物多様性危機の主要因である農業環境変化、侵入生物について理解し、多様性保全活動を考える。

後期開講科目授業概要【生物資源学専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
分子生物学 II	遺伝子発現の仕組みと遺伝的変動の生成を学んだ後、遺伝子工学の基本技術を講義する。特に、原核生物と真核生物の遺伝子発現の特色と遺伝子操作技術の原理の理解に焦点を当てる。ラクトースオペロンは、大腸菌を用いたクローニング技術の基礎として、学生実験の理解を深めるために必須である。
食品衛生学	食品は、それ自体に存在する有害物質や、その製造・保蔵の過程で混入・増殖する化学物質や微生物によって重大な健康障害を引き起こすことがある。一般に食品には安全・安心であることが求められており、それを取り巻く様々な規制や基準が設けられている。授業では、食品に関する様々なリスク、食品衛生に関わる法律や国際的な規制、食品の安全性に寄与する方法を対象に講義・演習を実施する。
生物学 II	生物学の諸領域のうち、植物の生殖と発生、生理、遺伝、生態、分類、進化に係わる基礎的領域について概説する。講義は、それぞれ専門領域の近い教官が担当する。
生化学 II	エネルギー代謝(生体エネルギー論)、および生体触媒である酵素の性質と酵素反応速度論について学習する。ついで、エネルギー代謝の例として解糖、クエン酸回路や電子伝達系、およびミトコンドリアと葉緑体におけるATP合成について学習する。
分子生物学 III	動植物において、①酵素・タンパク質が、特定のオルガネラに局在又は分泌される仕組み、②外界からのシグナルを受容して細胞が応答する仕組み、③細胞骨格を維持する仕組み、④細胞分裂の仕組みについて講義する。
応用気象学	種々の生産活動や日常生活は、多かれ少なかれ現場の気象条件に左右される。本科目では、気象学の入門編として地球大気に関する基礎知識を概説した後、応用編として気象・環境に関する知識とその利用について講義する。

後期開講科目授業概要【看護福祉専門科目 ; 永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
公衆衛生学	公衆衛生学は、疾病を予防し人々の健康を保持・増進させていくための技術と科学的根拠を提供する学問分野である。物理・化学環境、生物学的環境および社会経済的環境の健康への影響、個人や家族さらには地域、国レベルまでのさまざまな健康支援の在り方について学ぶ。また、人生のライフステージおよび地域、学校、職域といった生活の場でどのような公衆衛生活動が行われているのかを学ぶ。
保健指導論	公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象、保健指導の歴史的変遷を概説し、地域で生活する個人・家族を支援するために必要な知識と理論、技術について概説し、個別保健指導における保健指導の基本的な姿勢と技術を学習する。
公衆衛生看護活動論Ⅰ	健康教育の定義と目的・目標、対象と場、基盤となる理論を概説し、健康教育の展開過程を教授する。地域組織活動の歴史と特徴、活用できる理論・方法論、グループの発展過程を概説し、住民と協働してグループ・地域組織の活動を支援し、地域ケアシステムの構築とネットワーク化を展開する保健師の役割を教授する。
看護教育学	看護学教育の歴史と現状について学び、学習理論と学習方法、教育評価の考え方、看護学教育の基盤となる概念について基礎的知識を学習する。 実践の学問である看護学を学ぶ上で臨地実習が果たす役割について理解を深め、経験型実習教育を実践する上で求められるものについて確認する。その上で、看護学生が臨地実習で直面しやすい問題と、それへの対処について具体例を通して学ぶ。
精神保健ソーシャルワーク論Ⅰ	精神保健福祉士の専門的相談援助について、その基盤、関連領域と関連専門職、人権と権利擁護、総合的・包括的援助という枠組みから講義する
母性看護学概論	女性のライフサイクルに応じた課題、母性性や父性性と母親および父親の役割取得と発達について教授する。さらに、多様化した子産みと子育てに纏わる現状と課題を提示し、母性看護学の役割を省察する。
老年看護学	高齢者の栄養と排泄、運動機能や認知機能の障害を理解し、高齢者の“もてる力”を活かした看護の実践を理解する。
社会問題論B	社会問題とは何か？ それはどのような過程を通して構成されていくのか？ いくつかの社会問題を取りあげ、社会問題の構築論の立場から具体的・多角的に分析を加えていく。
生涯発達学	人間の「こころ・からだが作られる過程」を説明する。発育期(小児)を中心として、成熟後(成人)と対比しつつ、その延長としての「老化」に言及する。病気や「障害」の意味、現実、その状況にある人々への接し方についても話す。
解剖生理学Ⅱ	人の体を構成する消化器系、神経系、感覚系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的構造と、それらが働く仕組みについて解説する。授業は講義プリントに沿って進行し、小テストを毎回の授業の最後にする。また、各単元終了後に記述試験を実施する。
高齢者福祉論Ⅱ	本講義Ⅱでは、まず高齢期の「老いのプロセス」において現出する個別具体の生活上の課題を把握しその要因について考察する。特に心理社会的要因の理解を深めていく。その上で、高齢者の生活支援の基本的視点、具体的方法、課題について確認する。
家族看護論	様々な家族形態や特性を知り、家族看護に必要な基礎的理論、知識、技術を習得することを通して、看護の基礎となる自らの家族観を醸成する。
発達心理学Ⅰ	本講義では、発達という概念をとらえなおすことにより、人間の生涯を通して展開される発達について考察する。特に、乳幼児期から児童期に至るまでの発達の特徴についてとりあげ、自身のこれまでの発達についても理解を深める。
学校保健Ⅰ	子どもの健康課題に取り組むために、地域医療の観点から、人間の発育発達及び様々な健康レベルの理解と健康課題を見つけ理解し、学校保健と地域保健の組織活動について学ぶ。
法学概論	これから種々の実定法を学ぶ上で共通の前提となる①「法」の基本的な価値や考え方、②法の目的と機能、③実定法の体系や構造、条文の読み方、解釈の方法、④憲法、民法、刑法などの基本的な法律についての基本的な内容を説明します。

後期開講科目授業概要【看護福祉専門科目：永平寺キャンパス】

授業科目名	授業概要
民法（家族法）	憲法と並び近代市民社会の基本法ともいえる民法について、財産法の基本的な考え方や知識と関連させながら、逐次財産法についての説明を交えながら、親族法と相続法の基本的な内容を説明します。
ソーシャルワーク論Ⅳ	社会福祉の相談援助の基本を理論的に学ぶ。今日、社会福祉の相談援助は地域福祉の実践活動とともにソーシャルワークの機軸をなす。ソーシャルワーク論の全体を概観した上で、社会福祉の相談援助の展開様式、援助関係と面接技術を中心にしてその理論と方法を論じる。なお、社会福祉の相談援助は、個別の面接援助に終始しない。同時に、社会資源の活用、調整、開発が伴う。社会福祉の相談援助が制度運用を担う側面として、ケアマネジメントを論じる。各回、主題に応じた事例を紹介する。「ソーシャルワークⅠ/Ⅱ/Ⅲ」と同様、「ソーシャルワーク演習」や「ソーシャルワーク実習」の基礎をなす科目である。
疫学	疫学は人間集団における健康状態とそれに関連する要因の頻度と分布を明らかにし、公衆衛生の発展を目指す学問分野である。将来の保健師、看護師としての実践活動、教育研究活動の場面で健康事象(疾病など)とそれらの関連要因を明らかにするために疫学の基礎を学び、疫学的な考え方を涵養する。また、科学的方法論としての疫学の概念・方法を理解して、疫学により示される科学的エビデンスや研究方法論を看護や保健活動の場に活かす可能性について学ぶ。
社会福祉調査Ⅱ	授業の中で、実際に、福井県立大学の在学学生を対象としたアンケート調査を実施する。それを通して、社会調査の実施方法を体験的に学習する。データの入力や分析の方法についてもPCを使って具体的に学習する。
精神看護学	精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患や看護実践の方法、精神科における各種検査や各種治療法(精神療法、精神科薬物療法など)および精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。
在宅看護論	在宅看護では、自宅やそれに準じた環境で生活を営む療養者および家族を対象に、看護・医療・福祉・保健のあらゆる面から、QOLを高めることを目指し、多職種と連携・協働しながら、看護の役割を果たすことが求められている。そのための基本となることについて学習する。
臨床病態学Ⅱ	適切な看護を展開するための基礎となる疾患の病態機序を把握・修得することを目的として、各種内科疾患の本態や成り立ちを中心に、疫学・症状・診断・治療・予後ならびに看護上での注意点について講述する。
成人急性看護学	手術療法を受ける患者や健康状態の急激な変化が予測される救急患者に対する看護について基礎的知識を学習する。手術侵襲が生体に及ぼす影響、術後合併症予防、急性疾患の病態とトリアージ、家族看護について学ぶ。
ソーシャルワーク論Ⅰ	現代社会における相談援助の専門職としての社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を概観し、ソーシャルワークの概念と範囲について検討する。ソーシャルワークの実践基盤である人権と社会正義についてその概念と発展段階を講義する。グローバル化する社会における多様なソーシャルワークの利用者の権利擁護および専門職の倫理について理解する。
看護学原論Ⅱ	1. 看護の歴史的変遷や保健・医療・福祉システムの現状を踏まえて、これからの看護を展望する。 2. ナイチンゲール以降の看護理論に関する文献をもとに、看護のメタパラダイム(中心的概念)である人間・環境・健康・看護について考究する。
成人慢性看護学	がんを含む慢性疾患を持つ人々の健康の回復または健康障害を持つ人々がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。
保健統計学	集団における健康科学の方法論について話す。科学論の初歩から始め、因果関係の判定、疫学、人口統計、確率、統計の考えかた、最後に記述統計・統計的推論の手法まで解説する。人口・疾病統計や臨床研究など、応用面も簡単に触れる。
心理学概論	人の心や行動を理解するために、一般的な心理学の理論や考え方について学ぶ。心の基礎的な機能に関する話から、対人支援のための方法まで、心理学のさまざまな領域について概説する。
精神科リハビリテーション学	精神科リハビリテーションとそこでの精神保健福祉士の役割について指定する教科書に沿って講義を行う。

後期開講科目授業概要【教職科目 ; 永平寺キャンパス】

※教育職員免許状取得を目的とする方のみ受講可

授業科目名	授業概要
道 徳 教 育 研 究	道徳教育に関する基本的な考え方、我が国の道徳教育の歴史を踏まえ、改訂学習指導要領を解説し、「特別の教科 道徳」のあり方を捉えつつ学校教育における道徳教育の実施・道徳教育をめぐる諸問題について講義をする。さらに、今日的な課題や授業実践事例について演習を通して考察をする。
生 徒 ・ 進 路 指 導 論	近年の学校教育現場における諸問題を鑑み、児童・生徒の全人格形成の過程を深く理解した上で適切に支援できるように、生徒指導・進路指導に必要とされる理論や方法、児童・青年期の諸問題について講義する。
教 育 史	西洋および日本における学校教育に関する過去教育思想、教育活動、教育政策等を具体的に紹介し、それらのもつ問題点や注目すべき点を考察する。また、同時に、学校教育の歴史の全体像が把握できるようにも配慮する。
教 育 相 談	本講義では、学校現場でみられる子どもの不適応や問題行動について、具体的な事例を交えながら講義していく。また、問題を抱える子どもに対するカウンセリングや心理アセスメントの方法を、演習やロールプレイなどの実習を通して体験的に学んでいく。
教 育 原 理	教育学上の重要概念について初歩的な理解を得たうえで、教育に関する様々な事柄の中から、最も基本的なもの、現在社会的注目を集めているもの等を選び出し、それらについての具体的な紹介と解説とによって講義を展開していく
公 民 科 教 育 法 Ⅱ	現代社会の諸課題をふまえて、公民科教育における授業力向上について研究する。 ・ 公民科教育でなにをどう教えればよいのか。 ・ 模擬授業を通して、公民科教師としての授業力向上について協議・研究する。
商 業 科 教 育 法 Ⅱ	(1) 日本の商業教育の変遷を考察し、講義する。 (2) 研究授業を課す。 (3) 教育実習の準備をする。
理 科 教 育 法 Ⅱ	理科教育法Ⅰに引き続き、理科教育の理論と実践について、多面的に理解を深める。このため、①自分でテーマ設定を行い、理科の楽しさを安全に伝える方法を探る。②基礎を付した科目の中から1回分指導案を作成し、模擬授業を行う。これらの自己及び相互評価を行う。
農 業 科 教 育 法 Ⅱ	農業科教育法Ⅰに引き続き、農業科教育の理論と実践に関して教材研究、事例研究、模擬授業、模擬実験・実習などを取り入れて、実践的な農業科教育のあり方を研究する。
福 祉 科 教 育 法 Ⅱ	○ 教科「福祉」の9科目について学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。 ○ 実施した模擬授業をグループで検討し、よりよい授業について考える。 ○ 福祉科を実践するなかでの、フィールドワーク的な手法を学ぶ。

後期開講科目授業概要【一般教育科目 ; 小浜キャンパス】

授業科目名	授業概要
英 語 Ⅱ (金 3) ・ 中 級 ・ Reading	自然科学分野における英語の論文や著書を題材としながら、文構造の正確な理解に基づく精緻な英文読解力を身につける。学術的な英文の読解力に加え、研究活動や論文執筆に求められる論証の仕方も学ぶ。
東 ア ジ ア の 文 化 と 社 会	本講座では、台湾を視点の中心として、それを取り巻く東アジア各国の文化・社会と歴史について講義を行い、その複雑多様な文化と国際関係上での問題などへの理解を目指す。

後期開講科目授業概要【海洋生物資源学専門科目：小浜キャンパス】

授業科目名	授業概要
藻 類 学 概 論	多様な藻類の特徴とその成り立ち、藻類を含む植物特有の酸素発生型光合成と炭酸固定の基本的なメカニズム、藻類の分布と環境との関係、沿岸環境における藻類の役割と重要性、有用藻類の利用法について理解を深める。
水 産 資 源 学	水産資源の特性、資源変動を起こす単位、資源変動の要因を講述する。さらに、具体的な例を用いて、自分で計算にもトライする。
沿 岸 海 洋 学	沿岸域で発生する潮汐・潮流、密度流、吹送流などの基本的な特徴や、外洋の物理現象が沿岸海域に与える影響について生物生産過程や海洋環境問題と関連付けながら講義する。
沿 岸 生 態 工 学	沿岸環境で多様な機能が形成・発達する要因や、これを保全し持続的に利用するために必要となる基礎的事項を概説する。沿岸域の物理環境に対する生物の適応事例を挙げながら、沿岸環境を保全・修復し創出・管理するための方法論を講述する。
水 圏 微 生 物 生 態 学	海洋、湖沼、河川などの水圏環境での微生物の生態について学習する。微生物生態学の手法を理解し、環境中での物質循環過程における微生物の役割について学習する。
食 品 安 全 管 理 論	食品を食することはヒトに何らかの利益とリスクをもたらす。このリスクに対して行政機関あるいは食品を提供する企業がどのような具体的な体制を整えて管理しているのかを解説する。
水 産 経 済 学	日本の水産業を経済的視点から抱える固有の問題や課題を提示する。さらに、それらを分析する基礎理論（経済学の基礎理論及び漁業管理の基礎理論）を解説する。その後、基礎理論を用いて最初に示した問題を実際に分析する。
食 品 栄 養 学	我々は短期的にも長期的にも摂取する食物による生理的栄養、ひいては健康への影響を免れることはできない。本講義では、食品に含まれる各種栄養素の化学的特性・消化・吸収・生理機能・欠乏症・過剰症などの基本事項を解説する。さらに、日本人の栄養の摂取状況と寿命や疾病との関連について解説する。
分 子 生 物 学	生物の示す種々の生命現象の分子としての担い手である核酸やタンパク質について、それらの構造、生合成、遺伝子発現の機構などに関する分子レベルの知見を講義する。遺伝子組み換えやクローン化などの技術手法についても概説する。
生 物 資 源 統 計 学	統計学とは、数値化された事実（データ）の採取、整理、解釈に関する科学である。自然科学の研究や技術開発・各種分析・調査の現場において、適切なデータ採取とそのデータ解析は不可欠である。本講義では、ツールとしての実践的な生物統計学について概説する。
食 品 化 学	魚介類組織（主として筋肉）を構成する主要成分（タンパク質、脂質、エキス成分など）の組織分布、分類、および化学的特性について講述するとともに、これらの事項と魚介類の利用・加工との関連性について解説する。
漁 業 制 度 論	日本の漁業制度を形作っている漁業権、許可漁業その他の諸制度について、主として漁業法の規定、運用に即して、その内容、特色等について学習する。また、資源管理の観点から重要となっているTAC制度についても学習する。
地 学 概 論	地球や太陽系、宇宙の成り立ちや地球の特徴を捉え、地球の46億年の歴史に関わる基本的な知識と、地震や火山等の様々な地質現象、ダイナミックな地球の活動についてプレートテクトニクスを中心に解説する。また、生命は地球の環境変動と密接に関わりながら、進化・絶滅の歴史を繰り返してきた。地層と化石からどのような生命史のイベントが読み取れるのか古い時代順に紹介し、地球環境変遷と生物進化を解説する。
水 族 病 理 学	魚介類の飼育環境が生育環境と乖離しているために、種々の疾病が発生する。養殖業の社会的背景、魚病対象魚、魚病の種類、感染症の病原体、病気の予防法、診断法、治療法、耐病性品種の育成、魚病対策の体制を説明する。

後期開講科目授業概要【海洋生物資源学専門科目：小浜キャンパス】

授業科目名	授業概要
魚 類 学	約30000種と目される魚類は全脊椎動物の現存種数のほぼ半数に及ぶ多様な分類群であり、水圏生態系の重要な位置を占めている。また、水圏の最も重要な資源生物でもあり、魚類学は水産学の基礎としても不可欠である。本講義では、魚類の分類、系統、分布、形態、発生、生態、行動などに関する生物学的な知見を概説する。
水 産 経 営 学	日本海の底びき網漁業を題材としながら、漁業経営の条件と経営環境の変化、経営分析の概念と方法などについて解説する。ケーススタディとして、日本海の底びき網漁業の根拠地について地域分析と産地流通分析をおこなうとともに、地域の活性化の具体例を紹介する。
山 川 里 海 連 関 学	山川里海はすべて繋がっており、海の生態系や生産構造は陸域、河川、海洋の諸環境の影響を受けている。本講義では山川里海のつながりやその重要性について、海洋物理学的、生物地球化学的、生物学的、および人間生活の影響の側面から考えていく。
食 品 保 全 学	本授業では、食中毒を引き起こす自然毒と各種有害化学物質および微生物に関する基礎的知識を広く学び、食品を安全に保つための科学的な知識の普及と向上を図る。
水 産 施 設 工 学	漁港や漁場など水産業を支える基盤施設である水産施設について、その意義・役割、制度・計画に関する基本的な知識や手法等を講義する。併せて水産施設の整備にあたり必要となる工学的な基本知識とともに、これを踏まえた設計等について講義する。
生 物 資 源 分 析 化 学	分析化学の基本的概念やクロマトグラフィーの位置付けについて解説する。ガスクロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー及びキャピラリー電気泳動法などの機器分析法を学習する。その応用として、海洋生物資源を対象とした成分分析法を学ぶ。
海洋生物資源学特別講義Ⅴ (藻 類 増 殖)	藻類養殖は水産業にとって重要な産業である。本講義では、藻類の生育の基礎となる光合成特性に着目し、光環境との関係や生産力、衰退現象について学習するとともに、養殖対象となる有用藻類の生活史、養殖法、生産の現状などに関して理解する。